

第二次宝達志水町総合計画

基本構想 (素案)

宝達志水町

平成31年●月

目 次

1. 宝達志水町の将来像	1
(1) まちづくりの基本理念	1
(2) まちづくりのテーマ	4
(3) まちづくりの基本方針	5
2. 施策の大綱	7
3. 主要指標の見通し	9
(1) 総人口・世帯数	9
(2) 就業人口	10
4. 将来地域構造	11
(1) 将来都市構造の特徴	11
(2) ゾーン・エリア別土地利用方針	11

1. 宝達志水町の将来像

(1) まちづくりの基本理念

本町は、平成19年3月に第一次宝達志水町総合計画を策定し、将来像を『水と人が奏でるハーモニーのまち』と掲げ、基本目標である「地域の個性を活かしたまちづくり」「パートナーシップで進めるまちづくり」「小さくても住民サービスが行き届いたまちづくり」の実現に向け、まちづくりを進めてきました。

しかし、全国的な少子高齢化に伴う人口減少の進行を受け、本町は日本創成会議が警鐘を鳴らした消滅可能性都市に選ばれており、長期的な町の存続に向け速やかな対策が必要な危機的な状況です。特に高齢者以外の人口減少が著しく、働く世代や子どもを惹きつける魅力が必要です。また、近年の豪雨や豪雪といった自然災害の多発、ICTやIoT^{※1}といった高度情報化の進展など社会情勢がめまぐるしく変化しており、併せて、環境負荷の低減や健康、福祉の充実などに向けたSDGs^{※2}の視点での対応も重要となっています。

一方で、本町においては地方創生に取り組むべく「宝達志水町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、安定した雇用の確保、新しい人の流れの創出、若者世代の子育てなどの支援、地域間連携といった目標を立て、人口減少の克服に取り組んでいますが、情勢は楽観を許しません。

このような状況の中で、第二次宝達志水町総合計画では、本町が直面する課題に対応できるよう、特に、働く場所や住み良い環境の拡充を図ることで地元への定住やIターン・Uターンを促進しつつ、町民が安心して快適で豊かな暮らしが実現できるように進んでいく必要があります。そのためには、本町が危機的な状況を脱するには、町民の皆さまの積極的で主体的な参画が必要です。宝達志水町を支えるより多くの方々の行動計画となるよう、本計画を策定します。

※1 IoT…Internet of Things の略。モノがネットワークに接続され、データがやり取りされることで新しい価値を生み出す。

※2 SDGs…持続可能な開発目標 (SDGs) とは、国連が示す2016年から2030年までの国際目標。持続可能な世界を実現するための貧困や飢餓の撲滅、気候変動対策、資源保全など17のゴール・169のターゲットから構成されている。日本でも地方創生につながるものとして注目されています。

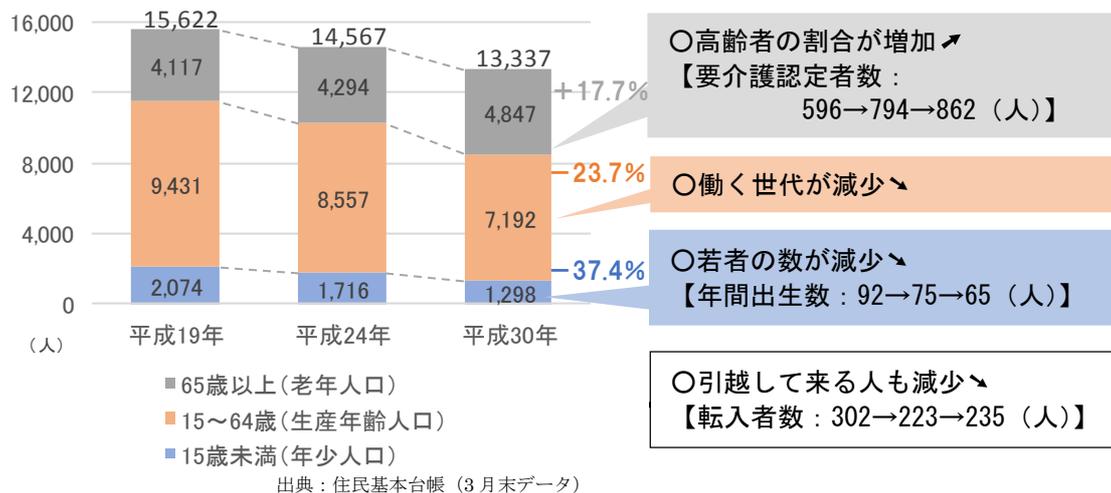
(2) 本町の現状と課題

平成19年3月に策定した第一次宝達志水町総合計画は、策定から約10年が経過しており、本町の状況は大きく変化しました。また、これからの10年においてもますますの変化が予想されます。

①宝達志水町のこれまでの10年

第一次宝達志水町総合計画を策定された平成19年、約10年後の平成30年とその概ね中間である平成24年に公表された統計データを比較しました。

【まちの人口】



【まちの活力】

○工業は増加傾向

【製品出荷額等（億円）】

98.9→68.5→112.1※

※H27値

出典：工業統計

○商店数が大きく減少

【商店数（戸）】

157→137→95

出典：商業統計

○農家数が大きく減少

【販売農家数（戸）】

766→560→425

出典：農林業センサス

○千里浜の観光客数は増加傾向

【千里浜の入込客数（千人）】

448→900→755

出典：石川県資料

○財政状況は改善傾向

【将来負担比率（%）】

293.6→170.9→60.9※

※県内市町の平均値程度まで改善

出典：総務省資料

○町政に関心がある町民の割合は横ばい傾向

【町政に関心があるか（%）】

68→ — →66

出典：町民アンケート

【まちでの暮らし】

○町道の延長は増加

【町道延長（km）】

251.9→256.6→257.3

出典：道路現況調査

○文教施設が減少

【公民館・図書館】

5→5→2

【主な運動施設】

23→18→13

出典：生涯学習課資料

○健康意識が改善

【特定健康診査の

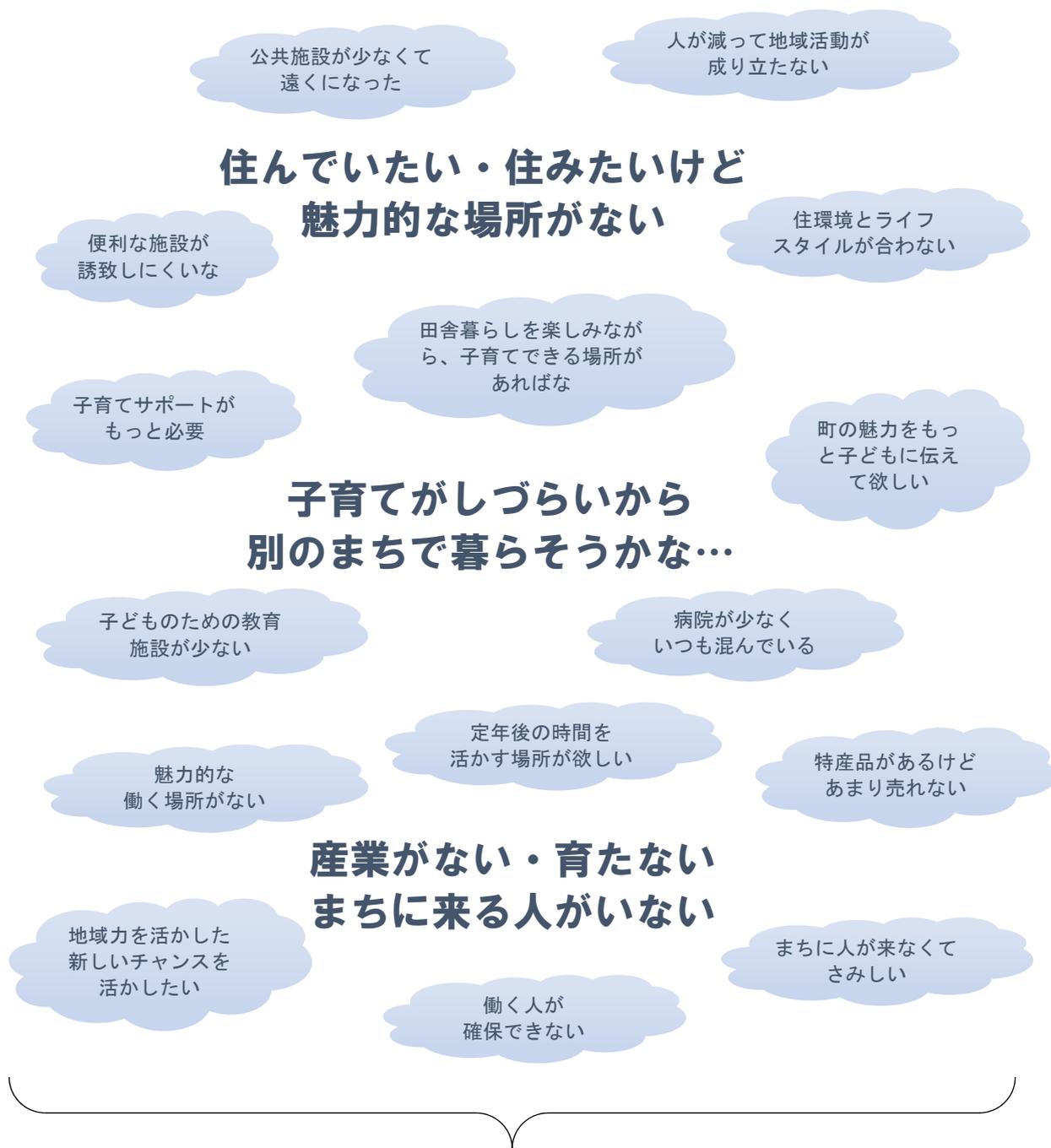
受診率（%）】

31.9→53.7→59.2

出典：健康づくり推進室資料

②宝達志水町のこれからの10年

現状のまま次の10年、20年先を迎えると、例えば、次のような事象が町民の生活に現れることが予想されます。



この危機的な状況を脱するためにはまず、町民と行政が一丸となって、**若者や子育て世代が魅力を実感できるまち**を目指す必要があります。

(3) まちづくりのテーマ

本町の自然や文化、そしてこれを継承し発展させていく町民こそが町の「宝」と考え、地域のコミュニティや活力が維持されるよう、人口減少や少子化の対策に最大限の努力を行い、将来を担う多様な人材を町の総力を挙げて育成することを通じて全ての人が活躍できるまちづくりを目指します。

まちづくりのテーマ

『育てよ！ 町の宝』 ～未来を担う若者が育ち、みんなが誇れる町づくり～

① 町の宝を育てる

町の将来を担う子どもや若者が育つには、「この町で育った」という確かなアイデンティティの認識が重要です。町の素晴らしさ、人の輪の大切さを感じながら成長していける町を目指します。

また、そのために現役、高齢者世代を含め全ての町民が健康で生きがいを持ち「人生を楽しみながら」過ごし、学び、働き続けられる環境整備に努めます。

② 町の良さを伸ばす

多くの人々が豊かで安全な自然、ゆとりある生活環境、町民の支え合いに町の良さを感じています。また、祭りや民俗、産物や食べ物など、町の個性がしっかりと息づいています。

一方で、買い物や交通の不便さ、老後の生活・健康・福祉への不安、娯楽や余暇を過ごす場が少ないといった不満の声があります。

良さを伸ばしつつ不安や不満の解消に努め、町民が満足できる町づくりに積極的に取り組みます。

③ 時代の変化や危機に対応する

生活や社会制度、国際化、技術革新など、時代が目まぐるしい変化に即応し、定住条件の強化や産業振興、地域の魅力向上につながる各種計画策定や制度構築に取り組みます。

また、自然災害や大規模な事故、健康被害をもたらす事態のほか犯罪、人権侵害など、様々な危機に対する的確な対応を図り、安全な町づくりに努めます。

(4) まちづくりの基本方針

1 誇り高き若者を育てる

町の未来を担う子ども達が町に対する誇りを持ち、強く、心豊かに育つよう、学校を取り巻く諸条件を踏まえ、よりきめ細やかで多様な教育内容の実践や教育施設の整備・充実に努めます。

安心して子育てができるよう、多様な家庭・就労状況にマッチした総合的な子育て支援を行います。

また、地域活動や社会との繋がりの中で、安全で健やかに成長できる環境づくりを進めます。

重点方針

「子育て環境
たとえば宝達志水町」とされるような支援
施策の充実

2 未来の為に学び、楽しむ

地域で培われてきた個性的な伝統や文化が継承され続け、町のアイデンティティをより強固にすると共に郷土愛を育み、豊かで元気な地域社会の存続と個々の住民の生きがいがいづくりにつながる支援を行います。

また、育まれた地域の魅力が広く伝播できるよう、町内外の交流を促進します。

重点方針

「特色ある地域
及び学校教育」の充実

3 全員参加の町づくり

様々な分野で多くの住民が互いに尊重し合い主体的にまちづくりに参画できる様、各種団体やNPOやボランティア団体との協働を推進し、地域の特性を生かしたコミュニティの形成に努めます。

また、魅力ある地域資源を活かした町内外の交流を促進し、新たな魅力づくりにつなげるほか、増加する在住外国人も地域社会の一員として暮らせる多文化共生の町づくりを目指します。

重点方針

「夢」や「希望」
が持て、実現し
共感しあえる
環境の充実

4 生活基盤の整備

人口減少対策を第一とし、町民の自慢である美しい自然環境を守りつつ、町の特徴を生かした質の高い生活基盤や交通網、情報・通信基盤の整備が行えるよう、計画性をもった町づくりを進めます。

また、町での暮らしの魅力を町内外に伝え、移住や定住の促進を目指します。

重点方針

「町外の人
が憧れるまち」と
なるような移
住・定住環境の
充実

5 社会福祉の充実

少子・高齢化が進展する中で、若者が魅力を感じ、老後の心配もなく生き生きと暮らせ、子育て環境の充実した、だれもが健康で安心して暮らせるまちづくりに努めます。

さらに、医療・福祉が連携して充実を図るとともに、住民一人ひとり

重点方針

「予防」や「支
え合い」の視点
での施策充実

の主体的な健康づくりを支援し、生きがいや目標を持って暮らせるまちづくりを進めます。

6 稼ぐ町づくりへの挑戦

人口減少により就業者数が減少する中、町の活力を保つため、就業者数の増加や働く場の確保に努めます。

農業においては農産物などのブランド化や新規事業の支援、安全や景観の観点による農地保全にも努めます。

また、あらゆる産業による横断、協調的な「地消地産」による「稼げるまちづくり」を強力に推進します。

重点方針

「戦略的な産業振興」の実施

7 安全な町づくり

町民、集落や消防を始め災害関係機関との連携を強化し、事前の行動による災害の未然防止や被害の抑制に努めると共に、大規模災害にも町全体で対処できる強靱な町づくりを推進します。

また、様々な犯罪や交通事故など、平穏な生活を脅かす身近な危険にも全ての町民が緊張感を持ちながら連携して防止する取組みを推進していきます。

さらに、武力や情報空間におけるテロや健康被害を引き起こす事態への対応を行っていきます。

重点方針

「町民一人ひとりの安全意識」の強化と「連携」の促進

8 健全な行財政改革の推進

人口減少や地域経済の縮小を踏まえ、適切な行政サービスを町民に将来にわたって安定的に提供できるよう、持続的な行財政基盤づくりを目指します。

また、行政運営の効率化や健全財政の推進に向け、宝達志水町行財政改革大綱に基づき、民間活力の活用など、時代の流れに応じた持続可能な行政運営に努めます。

さらに、行政の運営体制についても、住民の意見を踏まえつつ、組織や機構の簡素化、事業の整理や合理化、行政手続きの簡素化などにより、経費節減による財政の健全化、公営企業及び公社の経営健全化を図ります。

重点方針

「持続的な行政サービス」の提供

2. 施策の大綱

町の宝を育てる

誇り高い若者を育てる

- 1 学校教育の充実
- 2 子育てサポートの充実
- 3 青少年の健全育成

未来の為に学び、楽しむ

- 1 地域全体での特色ある教育
- 2 歴史・文化遺産の継承
- 3 生涯学習の充実
- 4 生涯スポーツの推進
- 5 町内外の交流の促進

全員参加の町づくり

- 1 自助・共助・公助の連携
- 2 男女共同参画社会の確率
- 3 国際交流・多文化理解の推進

町を支える力を伸ばす

生活基盤の整備

- 1 定住の促進
- 2 良質な生活基盤の充実
- 3 環境への取り組み
- 4 交通ネットワークの利便性向上
- 5 戦略的な土地利用の推進
- 6 情報・通信基盤の整備

社会福祉の充実

- 1 健康づくりの推進
- 2 医療体制の充実
- 3 高齢者福祉の充実
- 4 障害者(児)福祉の充実

時代の変化や危機に対応する

稼ぐ町づくりへの挑戦

- 1 農林水産業の振興
- 2 商業の振興
- 3 工業の振興
- 4 観光の振興

安全な町づくり

- 1 防災・消防減災体制の充実
- 2 防犯・交通安全対策の充実

健全な行財政改革の推進

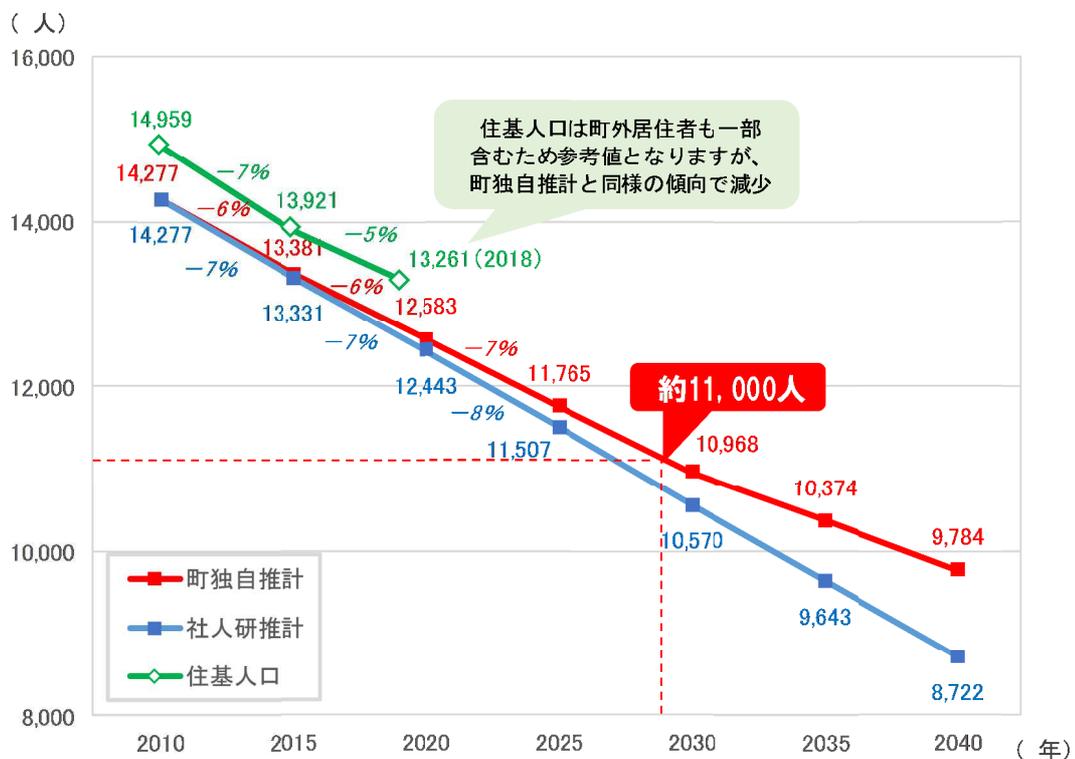
- 1 持続可能な行政運営の推進
- 2 財政健全化の推進
- 3 公営企業の経営健全化

3. 主要指標の見通し

(1) 総人口・世帯数

宝達志水町人口ビジョンでは、長期的な人口減少の影響を見据えながらも、人口減少は不可避であることを受け止め、バランスの取れた年代別人口の確保を図り、2040年の時点では約9,800人を維持することを目指しています。

本計画においても、2029年度に国勢調査の人口を基準に概ね11,000人の確保を目指しています。



宝達志水町人口ビジョン…「宝達志水町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の関連計画として町の将来人口を推計しています。総合戦略で掲げた各施策の実現により、2040年の目標人口を約9,800人としています。

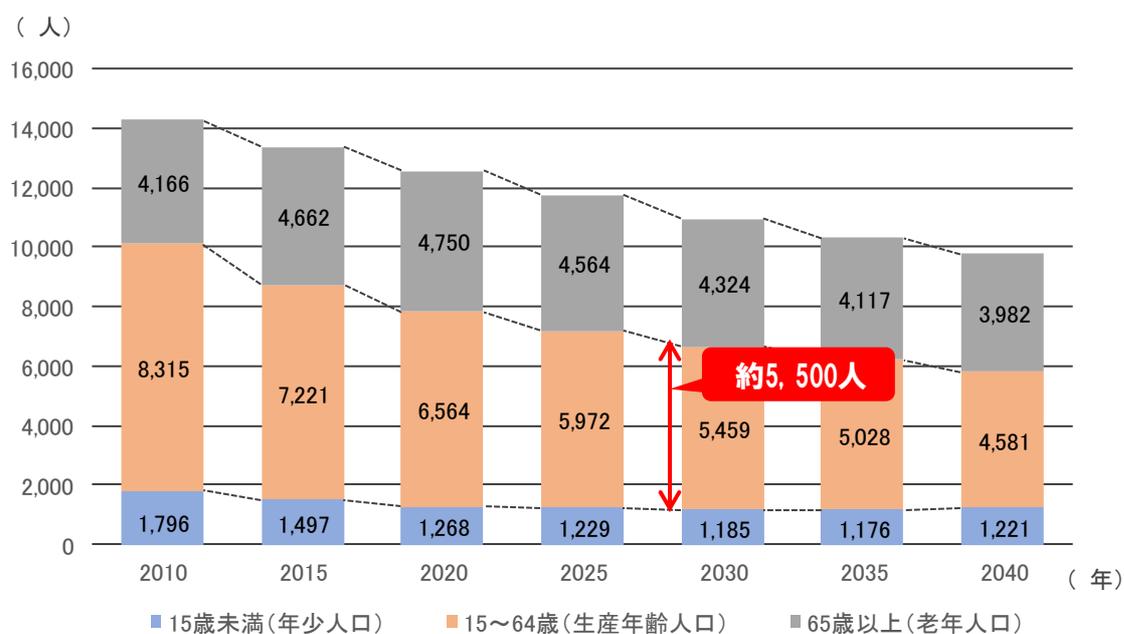
社人研推計 …国立社会保障・人口問題研究所(社人研)の推計では、2040年の人口が約8,700人と算出されています。

住基人口 …町の人口は、上記推計で用いた国勢調査の他に、住民基本台帳(住基人口)においても毎月整理しています。ただし、集計方法の違いによる差があるため、上記推計値と単純比較ができず、減少率を参考としています。なお、グラフ上の数値は、国勢調査の調査日に合わせ、9月末のものであります。

(2) 就業人口

本町では年少人口（15歳未満）と生産年齢人口（15～64歳）のうち若年層の減少が続いている一方で、老年人口（65歳以上）が増加しています。そのため、宝達志水町人口ビジョンでは、若者定住促進や移住希望者への住環境整備及び子育て支援などを強化し、高齢化は進むものの、年少人口と生産年齢人口の長期的な安定確保を目指しています。

本計画においても、2029年度に生産人口を国勢調査の人口を基準に概ね5,500人の確保を目指しています。



出典：宝達志水町人口ビジョンを一部加工

4. 将来地域構造

(1) 将来都市構造の特徴

将来における都市構造を「4ゾーン」と「2エリア」に分け、良好な住環境や自然環境を保全しつつも活力ある都市の構築を目指します。また、「主要交通結節点」は、町への玄関口として、地域の生活や広域交流のための利便性を高めます。

(2) ゾーン・エリア別土地利用方針

①既成市街地ゾーン

住宅や生活利便施設、公共施設が立地するゾーンで、ゆとりある住環境を保全しつつ、買い物環境や憩いの場の充足しながら、快適な市街地を形成します。

②田園・集落ゾーン

良好な農地と集落が広がるゾーンで、都市ににぎわいや活力を与えるエリアを内包しつつ、農地の保全と集落居住環境の向上を図ります。

③振興・交流ゾーン

レジャー施設や発電所、工場、試験場といった施設が立地するゾーンで、自然環境を保全しつつ、産業振興を持続的に図ります。

④自然保全ゾーン

町内を流れる河川の源となる宝達丘陵の山林が広がるゾーンで、開発を抑制し豊かな自然環境を保全しつつ、身近に自然や歴史を感じられる場所を確保します。

⑤海浜リフレッシュエリア

なぎさドライブウェイを有する海岸のエリアで、砂浜の保全をし、憩いの環境の充実と交流の促進を図ります。

⑥沿道にぎわいエリア

田園・進行ゾーンの内、国道 159 号沿線の交通アクセスに優れたエリアで、都市ににぎわいや活力を与える施設の立地を図ります。

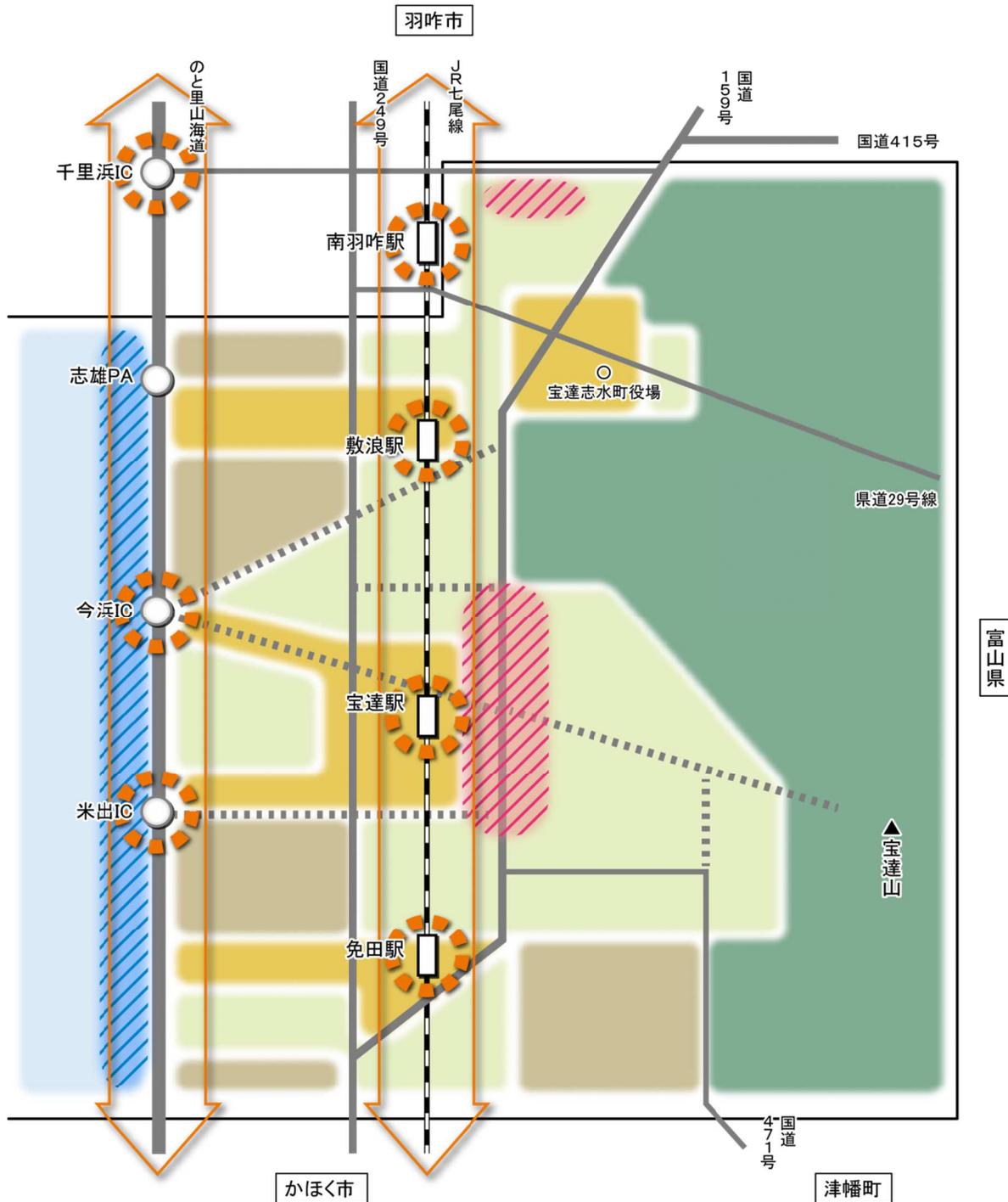
主要交通結節点

のと里山海道の IC や JR 七尾線の駅は、地域の生活や広域交流の拠点として、周辺環境と調和しつつも、道路や鉄道利用者にとって利便性の高い環境づくりを図ります。

【軸の考え方】

広域交流軸・・・のと里山海道、国道 159 号、県道 29 号線、JR 七尾線などについては、金沢都市圏や七尾都市圏、高岡・氷見都市圏などの町外と結ぶ重要な路線であるとともに、北陸自動車道や北陸新幹線などとも連携する広域的かつ重要な交流軸として、交通ネットワーク機能の充実および路線の積極的な活用を図ります。

地域生活軸・・・ゾーン・エリア内外を結び、広域交流軸を補完する路線として、交通ネットワーク機能の活用と維持を図ります。



- | | | | | | |
|---|------------|---|---------------|--|-------|
|  | ① 既成市街地ゾーン |  | ⑤ 海浜リフレッシュエリア |  | 広域交流軸 |
|  | ② 田園・集落ゾーン |  | ⑥ 沿道にぎわいエリア |  | 地域生活軸 |
|  | ③ 振興・交流ゾーン |  | 主要交通結節点 | | |
|  | ④ 自然保全ゾーン | | | | |